

# 弾き歌いにつながるピアノ学習の取り組み

## ～高校音楽科の現状を踏まえた授業実践報告～

永井 知可子

キーワード：弾き歌い ピアノ演奏の基礎力 長野県高校音楽科の現状  
高大連携のための授業実践

### I はじめに

昨今、高等学校では教育課程が変わる際などに芸術の授業が減らされていることが危惧されている。現在、非常勤講師をしている高校は農業高校ということもあり、1年生のみ必修（美術と音楽で選択）、また3年生においては他教科との選択必修で受講者は3分の1以下になってしまう。さらに、1年生で美術を選択した場合、3年間「音楽」を受講することができない状況である。

幼児教育学科に進学する生徒には、全く「音楽」の授業を受けずに入ってくる生徒も少なくないように感じる。また、3年生のみ受講し、短大合格してからピアノの学習を本格的に始めることも多い。そのような生徒は、音名がすぐ読めない、リズムの理解に時間がかかり、ピアノ曲を弾くこと、弾き歌いをすることを苦手にしてしまっているように見受けられる。

そこで、幼児教育学科に進学を決め、音楽の授業を受けている場合、最低限、弾き歌いができるまでの指導体系を考えることができないかと考えるようになった。

### 研究目的

本研究の目的は、幼児教育学科において弾き歌いに必要なピアノ演奏を高めるために、身に付けておくべき基礎力について明確にするとともに、高校音楽

科の現状を踏まえた高校での授業実践を通して、指導方法や課題を考察することである。

## 研究方法

研究の方法は以下の2つである。

- ① 長野県の県立高校において各校の教育課程と、本校幼児教育学科1年へのアンケートより高校音楽科の授業受講についてと授業内容の実態を探る。
- ② 弾き歌いに必要なピアノ演奏の基礎力についてまとめ、それに基づいた授業実践を検証、考察する。

## II 長野県音楽科の現状

### 1. 教育課程

現在、「Iを付した科目には「音楽I」、「美術I」、「工芸I」、および「書道1」の4科目があり、すべての生徒がこれらのうちから1科目を履修すること<sup>1)</sup>」としている。そのため、多くの学校で音楽Iは1年もしくは2年に履修するよう教育課程では編成されているが、音楽IIやIIIについては、各学校の教育課程によって大きく変わってくる。

次のグラフは長野県高等学校音楽教育研究会教育課程専門委員会がまとめた音楽科授業一覧を音楽I、II、III、学校設定科目、及び必修、選択別でまとめたものである。私立、夜間定時制、また通信制を除いた学校数、78校を基にグラフ化した。

---

<sup>1)</sup> 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術編 音楽編美術編」2018, p.18

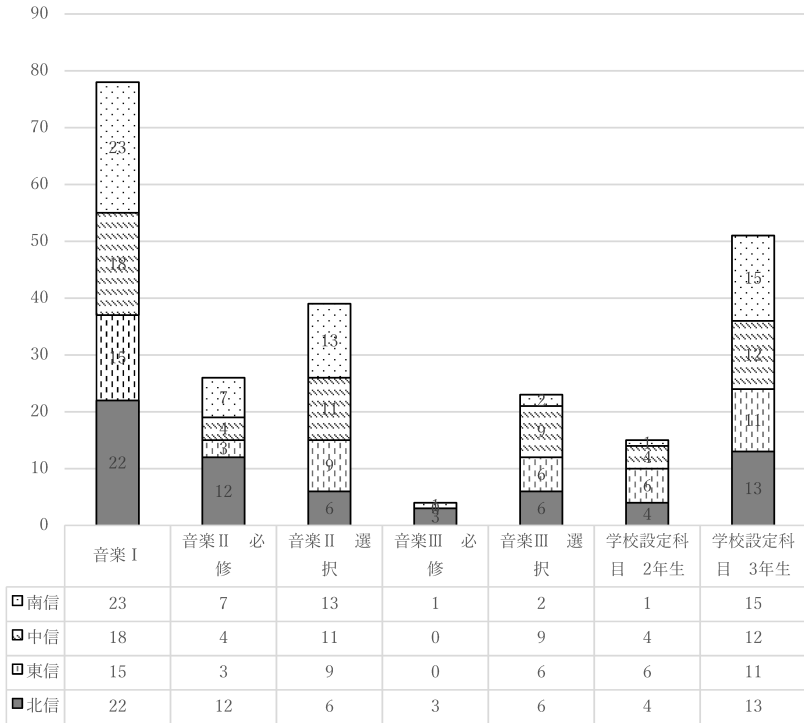


図1 「長野県音楽科教育課程 2020年度地域別実施授業」

音楽Ⅱのうち、3学年で設定している学校は全県で11校。うち必修は2校あった。

グラフより、音楽Ⅱの必修は3分の1に、音楽Ⅲまで必修として授業を受ける高校は4校のみとなる。つまり、自分の意志で他教科との組み合わせの中から音楽を選択しない限り、音楽の授業を受けることができない。

さらに、芸術Ⅰを音楽以外の教科を取った場合、学校設定科目でないと音楽の授業を受けることができない。78校中24校がそれであるが、多くが進学校か工業、農業系の高校となっている。しかし、幼児教育学科を目指す生徒はそのような高校からも希望者がいることを考えると、柔軟性のある教育

課程を編成し、美術などの芸術科目を選択しても進路によって音楽を選択できるように変えていくことは重要な課題と考えることができる。

また、上記とは反対に、学校設定科目を設置している学校では、幼児教育を目指す生徒のためにさまざまな授業が展開されており、進路を見据えた内容を履修できることは魅力的である。

## 2. 生徒の実態

現在の教育課程を把握できたところで、実際生徒の中には高校において音楽を選択したことがある割合を調べるために、本校 2020 年度入学の 1 年生 41 人にアンケートを行った。

質問：高校時代、芸術の授業で音楽を選択しましたか？

- ① 1 年または 2 年で音楽を選択し、3 年でも音楽の授業を受けた
- ② 1 年または 2 年で音楽で選択し、3 年では音楽の授業を受けていない。
- ③ 美術などを選択したが、3 年の選択授業で音楽を選択した。
- ④ 授業をうけたことはない

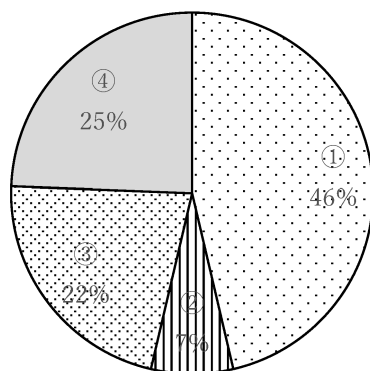


図2 「芸術科目の音楽選択の割合」

アンケートの結果、

- ㊦ 3年間、音楽の授業を受けていない生徒が少なくとも4分の1いることがわかる。
- ㊧ 音楽以外の芸術科目をIで選択し、学校設定科目で選択した生徒が約20%いる。
- ㊨ 継続的に1～2年、もしくは1～3年で音楽の授業を受けている生徒と、㊦㊧の生徒の割合はほぼ同じ割合になることがわかる。

㊧の生徒に対して、1年間で音楽的な基礎力とピアノの基礎力を付けるためには、幼児教育、とりわけ弾き歌いに特化した内容に厳選して授業で扱うことが大切ではないだろうか。

また、㊦の生徒に対しては以下のアンケートを行った。

質問：ピアノは学校以外で習っていましたか？または、授業以外の時間に音楽の先生に教わっていましたか？

- ア. 音楽の先生に授業外の時間に教わっていた
- イ. 学校外のピアノ教室で教わっていた
- ウ. 音楽の先生に授業外の時間と、ピアノ教室、両方で教わっていた
- エ. どちらとも該当しない
- オ. その他

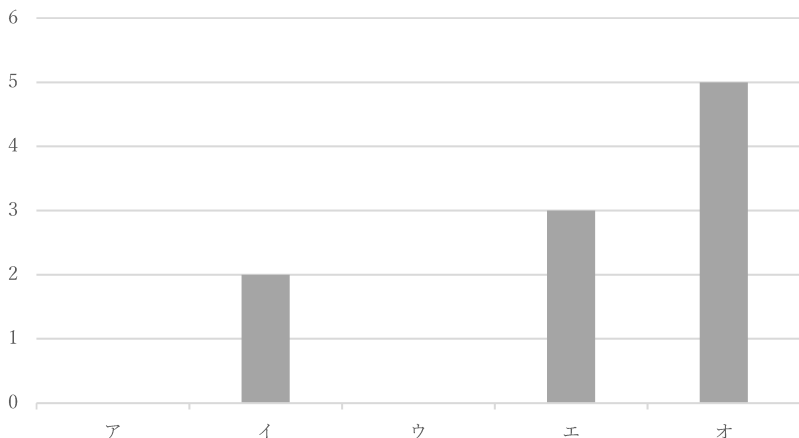


図3 「高校において音楽の授業を受けていない生徒のピアノ学習の実態」

「オ、その他」の内訳としては、小学校の頃習っていたため、その後独学が2人、本校佐藤雄紀先生によるピアノ講座において学習した生徒が3人であった。

アンケート結果より、音楽の授業を選択しないと授業外で教わることは難しいことがわかる。教育課程より幼児教育を目指す全ての生徒が授業を受講することができないため、そのような生徒は、生徒自身の意欲にかかってくるといえるだろう。

### Ⅲ 弾き歌いのための音楽の基礎力

#### 1. 弾き歌いまでに

弾き歌いは、言うまでもなく「弾きながら歌う」ことである。歌唱も練習は必要だが、歌うとピアノを弾けなくなる生徒が多いことから、ピアノ演奏の力を上げていくことは課題になってくるだろう。

弾き歌い、とりわけ子どものうたに関しては、右手のメロディ演奏と左手の和音伴奏を習得することが必須である。

右手メロディは、楽譜によっては和音や2声で書かれているが、園に関しては単音での演奏でも子どもたちにはわかりやすく、歌いやすいため、まずは単旋律で弾けることは大切である。

次の項目は、二宮紀子「子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社から弾き歌いのピアノ伴奏に必要な基礎力をまとめてみたものである。

#### 「ピアノ伴奏に必要な基礎力」

##### <メロディを演奏するための基礎力>

- ・音名で歌うことができる
- ・リズムを理解して弾くことができる
- ・拍子を感じながら弾くことができる

##### <和音伴奏>

- ・ヘ音記号の音名を読むことができる
- ・和音の基本形・転回形を理解することができる
- ・和音の種類を理解することができる。またはコードを理解することができる
- ・音階と各調のカデンツを理解し、弾くことができる
- ・さまざまな伴奏の型を弾くことができる

以上のことを、弾き歌いができるまでに習得しておきたい基礎力と位置付けていきたい。

そして、この基礎力は高校音楽でも養うことのできるものは多く、ソルフェージュと楽典の内容と一致するところが多い。幼児教育が進学希望でなくとも、音楽の表現のために学ぶことは有益な内容である。

## 2. 高等学校での学習状況

では次に、現在高等学校ではどの分野を学習しているのか、実態を把握するためアンケートを実施した。回答はⅡ. 2の質問で音楽を選択したことがある生徒31人のみである。

質問 1：次のうち、授業で活動した内容すべてにチェックしてください。

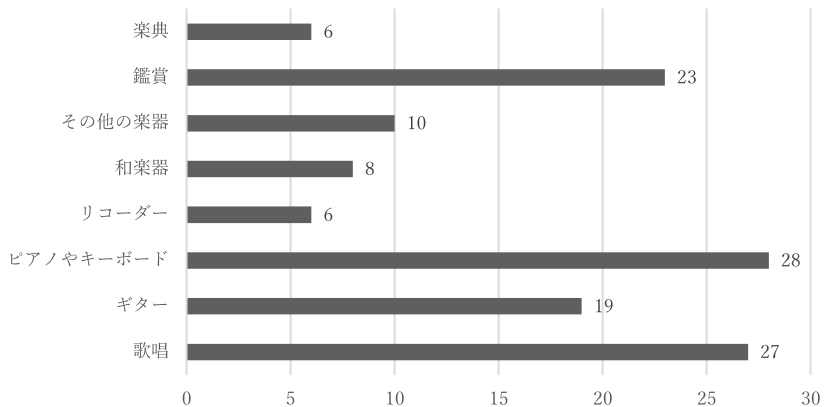


図 4 「高校の音楽授業で活動した内容の比較」

質問②：次のうち、授業で学習した覚えのある項目すべてにチェックしてください。

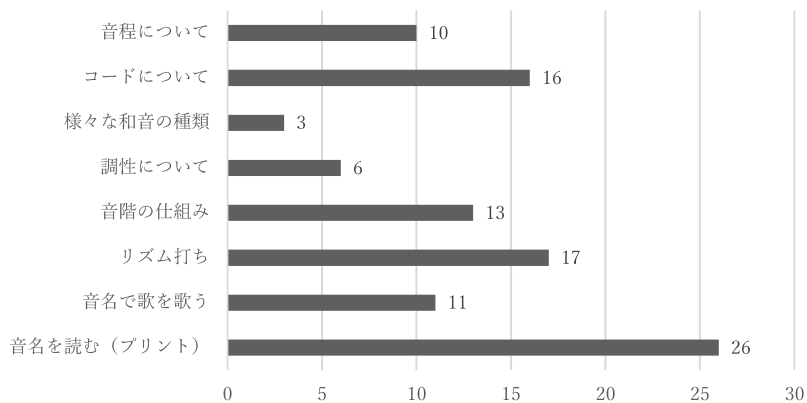


図 5 「高校音楽授業内で伴奏に必要な基礎力を取り入れた学習の比較」



### 3. 考察

質問①より学習指導要領の領域としてある「歌唱」「器楽」「鑑賞」は満遍なく学習していることがわかる。器楽に関しては、ピアノ・キーボードの学習率も高い。Ⅲ. 1の中でまとめた「弾き歌いのピアノ伴奏に必要な基礎力」に関わってくる、楽典を行っている学校は少ないようだ。

質問②ではさらに細かく、授業で学習した内容について、「弾き歌いのピアノ伴奏に必要な基礎力」につながる項目に絞ってアンケートした。なお、学習したことを覚えているということは、身に付いてる可能性が高いことから、学習した覚えのある項目にチェックする質問にした。

アンケートより、気になることとして、プリントによる音名読みは多く行っているが、「音名で歌うこと」についてはプリントによるものより半分以下になってしまう。音名で歌えることは弾けることへ繋がる大きな1つだが、実施されていないことは注目すべき点である。また、高校音楽で取り扱う歌唱独奏曲はト音記号で書かれており、ヘ音記号の音名を読み、歌うことはさらに少ないだろう。

また、コードについての学習が予想外に多かった。これについては、ギターを取り扱う学校が多く、その際にコードの成り立ちや様々なコードの種類について学習することが多いのではないかと推測できる。

それに対し、半分以下の項目が「弾き歌いのピアノ演奏力に必要な基礎力」の和音伴奏に関わってくる項目となっていることがわかる。特に「様々な和音の種類」については極端に低く、弾き歌いに出てくる和音を理解するための基礎力に結びつけるまでには至っていないことがわかる。

## IV 弾き歌いに向けての高等学校音楽での授業実践

### 1. 実践例「調性の獲得と和音伴奏」

#### ①指導内容

Ⅲ. 3の考察より、メロディだけでなく和音伴奏に繋げるための授業の実

践を行った。授業は非常勤講師をしている南安曇農業高校3年生選択「音楽Ⅱ」15人に対して行った。うち、現在でもピアノ教室に通っている生徒1名。小学校までピアノ教室に通っていた生徒3名である。

今回の実践は、埼玉県永瀬音楽教室の永瀬礼佳先生が園児も含む生徒全員に行っている楽典<sup>2)</sup>を参考に指導案を作成した。

また、今年度は休校があったため、1部は休校中の課題としてプリントで学習したものあったり、授業時間短縮で行ったものもあることから明確な指導時間数が図れないが、休校も含むほぼ1学期中の授業で行った内容である。

### 指導案1「様々な調性でメリーさんの羊を弾いてみよう」

指導内容	指導の方法と留意点
①半音と全音を理解する。またこの時に簡単に音程についても理解を深める。	○ピアノ鍵盤を使つての理解と楽譜からの理解双方からアプローチする。 ○その際、＃と♭についても同時進行で学習していく。 ○音程については、長短までは行わず、3度5度のように単純に幅を数えるまでに留める。
②長調の音階を作る	○半音と全音を使つて音階を作っていく ○全音・全音・半音 と 全音・全音・半音を全音でつなぐ、という方法で白鍵のド～シの音から始まる音階を全て作る。 ○キーボードを使いながら全音半音を確かめながら作っていく。
③それぞれの調の名前を覚える	○日本音名と英語音名で②の調を表す。また、～調と指示したら、弾けるよう練習する。
④「メリーさんの羊」を指番号で弾けるようにし、ポジション移動をして②の全ての調で弾けるようにする	○指番号は 3 2 1 2 3 3 3 2 2 2 3 5 5 3 2 1 2 3 3 3 2 2 3 2 1 で統一する ○ハ長調であれば、ポジションはドレミファソと5指のポジションで指導していく。

<sup>2)</sup>永瀬礼佳「入会2年で音大入試問題が解けるようになる！あやか先生の楽典ドリル」『ムジカノーヴァ』音楽之友社、2020,2月号 p.100-102・2020,3月号 p.94-96・2020,4月号 p.93-95

⑤「メリーさんの羊」の右手が弾けたら、④の調全てに左手で和音を付けて演奏する	○和音については、各自でメロディに合うものを探していく。 ○和音については、三和音について学習をする。音階の各音に①で学習した3度の音を2つ重ねることで、自分で三和音を作っていくことができる。
⑥最終試験：ランダムに選ばれた3つの調性の「メリーさんの羊」をその場ですぐに弾ける	○②で作成した調性のプリントの持ち込みはOKとした。

## ②実践の結果

始めは個人差があり、様々な長音階を作ることも難しいと感じていた生徒も、じっくりと考え、教師の助言によって2つほど作れたところから、その後ほとんどの生徒が自力、もしくは友達と考えながら全て作ることができた。

「メリーさんの羊」の左手和音も、響きをよく聴き、メロディに合っている和音を探し、どの和音を使っているか理解しながら、演奏することができた。さらに、すぐにできてしまった経験者の生徒には和音の伴奏形を変えたり、転回形を個別に教授し、さらに発展した伴奏づくりをすることができた。

最終試験ではどの生徒も、両手での演奏とどれが出るかわからない中、3つの調性を弾ききることができた。

## ③考察

以上の実践例より、童謡の弾き歌いにつながる和音伴奏のピアノ演奏を段階的に学習することができたと考えられる。様々な調性にも対応でき、童謡に多いハ長調、ヘ長調、ト長調、また二長調もしっかりと学習することができたため、弾き歌いへの導入へ繋げられる1つの手立てになると考察できる。

問題点としては、音名を読んでの演奏がなかったことがあげられる。特に両手奏法と調性理解に特化してしまったため、楽譜を読んでの演奏指導ができるようにしていく必要がある。また、基礎力として身に付けたい「カデンツ」に繋げる活動を取り入れる必要性があげられる。「メリーさんの羊」でも、

各調のⅠ、Ⅴの基本的なカデンツに展開することができるので、次の課題としてあげておきたい。

## 2. 実践例「コード奏法」

### ①指導方法

1の実践より、三和音の習得ができたため、コード学習へ繋げることができた。授業時間は7時間、試験は1時間である。

### 指導案2「コードを理解してコード奏にチャレンジしてみよう」

指導内容	指導の方法と留意点
①様々なコードの種類を学習する（1時間）	○三和音の作り方を基に、長和音（メジャー）、短和音（マイナー）、増三和音（aug）の違いを演奏と譜面から学ぶ。 ○七の和音にも挑戦し、属七の和音（7 <sup>th</sup> ）、減七の和音（dim）について同様に学習する。
②愛唱歌集 <sup>3)</sup> より好きな1曲を選択し、右手メロディ、左手コード奏の演奏を練習する（2～6時間）	○コードを見ただけですぐ和音が弾けるまでには至っていないため、教科書 <sup>4)</sup> のキーボードコード表を参考に各自で伴奏付けを行う。 ○曲によってはsus4や6 <sup>th</sup> の和音があったが、机間巡視を行い、その都度説明をする。 ○時間が余っている生徒は、左手の伴奏形をアレンジ、また右手のメロディにも和音の部分を入れるよう指示する。
③試験：グループ数人の中で演奏をし発表する	○5人ずつのグループを作り、発表する。

<sup>3)</sup> 長野県高等学校音楽教育研究会編『コーラスと信濃讃歌 愛唱歌集』教育芸術社、2016

<sup>4)</sup> 小原光一ほか8名『MOUSA』教育芸術社、2019

## ②実践の結果と考察

すぐに「このコードはこの音」と最初はならなかったが、時間をかけて練習するうちに何度でも出てくるコードを覚えたり、コードの仕組みに気づきながら練習することができてきた。コード奏の授業の感想として、以下のようなものがある。

### <コード奏の授業感想から>

- ・自分でアレンジしながら練習するのは楽しかった。全部コードを覚えたらいろんな曲が弾けそうだ。
- ・コード奏は難しかったが和音があることは大切だなと思った。
- ・自分でやってみて、両手で弾く大変さがわかり、コードや和音が多い曲をスラスラ弾ける人はすごいと思った。
- ・自分もこんなに弾けるようになって思わなかったから、練習すれば身につくことがわかった。
- ・楽譜がたくさん読めないが、コード奏や和音を付けることで楽譜が読めた気がしてうれしかった。

生徒の感想からもコード奏の良さやピアノへの楽しさが伺える。さらにアレンジをして様々な伴奏形を自分で生み出していくことができるため、高校で経験しておくことは幼児教育学科を目指す生徒には有効ではないだろうか。(資料1は2つの授業実践後の「まとめ」のプリントである。)

## V おわりに (今後の課題と展望)

まず、長野県の音楽科の現状として、学校間で差があることが今回の調査で明らかになった。授業内容は進学校か職業校かなどで相違があることが予想はできたが、往々に歌唱、器楽の表現演奏に偏る傾向があると考えられる。演奏に必要な基礎力は「練習時間」も大切だが、演奏の根拠となる楽典の理解は避けられない。楽典やソルフェージュをどのように授業の中に組み込み、演奏活動へつなげていくか高校音楽科の教員の課題である。

次に、幼児教育学科を目指し3年生で音楽を選択した場合、1年間でどれた

け弾き歌いに必要な演奏基礎力を付けていくことができるかを課題として、授業実践に取り組んだが、他の領域との兼ね合いもあり授業時間数に限りがある場合は、全てを行うことは難しいだろう。特に大きな課題として、「カデンツの理解」と「ハ音記号の譜読み」についてがあげられるが、指導方法によって高校で扱える内容ではないかと推測している。また、今回触れていない「和音の基本形・転回形」や「さまざまな伴奏の型」については、幼児教育学科において、実際の弾き歌い曲から習得することが望ましく、それらが組み込まれる指導体制を整えることも必要だろう。

しかし、初心者の子生であってでも左手の和音伴奏に繋がる楽典を取り入れながらピアノ演奏の授業を重ねることで、飛躍的に演奏技術が向上したことは、今回の研究の成果である。特に、「調性を理解すること」で、臨時記号の位置を考えて演奏したり、和音に用いられる音を想像しながら、伴奏付けを行うことができたと考えられる。今後の課題である「カデンツへの理解」にも繋がることから、調性を理解する授業実践を継続して高校音楽科で行っていきたい。

以上より、高校の音楽科では、基礎力のうち「調性を理解する」「和音やコードについて理解する」という2点を身に付ける授業を半年間で展開できることが明らかになった。課題点を取り入れた1年間の指導法の作成と実践の積み重ねが今後の課題である。また、幼児教育学科でも継続して「弾き歌いのピアノ伴奏に必要な基礎力」である楽典やソルフェージュを学習していくことは、保育の現場で求められる弾き歌いや、「楽譜を読み解く力」を持ち備えた音楽の指導できる人材を育成する手立てになるのではないだろうか。

## 引用・参考文献

- ・小原光一ほか8名『MOUSA II』教育芸術社、2019
- ・楠井淳子『改訂版 保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の基礎と表現～楽典とソルフェージュ～』ふくろう出版、2018

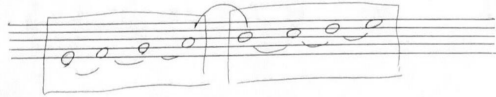
- ・坂井康子監修 他3名編著『歌おう♪弾こう♪こどもとともに』ヤマハ、  
2006
- ・佐野真澄『かいておぼえる音楽ドリル②』kmp, 2005
- ・長野県高等学校音楽教育研究会編『コーラスと信濃讃歌 愛唱歌集』教育芸術社, 2016
- ・永瀬礼佳「入会2年で音大入試問題が解けるようになる！あやか先生の楽典ドリル」『ムジカノーヴァ』音楽之友社, 2020,2月号p.100-102・2020,3月号p.94-96・2020,4月号p.93-95
- ・二宮紀子『歌って、弾いて、書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ 保育士、幼稚園・小学校教員養成課程のための』音楽之友社, 2014
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術編 音楽編 美術編』2018

# キーボード・調や和音 まとめ

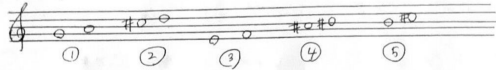
1学期からキーボードを使いながら、様々な音楽のしくみについて  
勉強してきました。

覚えているかな？

1 音階の作り方は？ 半音・全音を書きましょう。

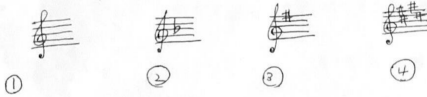


2 半音はどれ？ 全音はどれ？



半音 → ( ) 全音 → ( )

3 次の音階は何音階？



4 次の和音は、コードで表すとどうなるでしょうか？

